

<b>国際会計論A</b>		<b>講義</b>	<b>教授 安藤 鋭也</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネスコースの専門 選択科目, 会計ファイナン スコースの専門選択科目, 教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23220209 25320206</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

この授業では、国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards, 以下 IFRS という。）を中心に学修します。IFRS を適用（または適用を検討）している日本企業は 277 社です（2023 年 12 月末現在）。IFRS は海外でも、米国を除く多くの国で適用されています。今や「世界の共通言語」である IFRS を、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

前期の国際会計論Aでは、IFRS の学び方・基礎知識・概要を学修します。後期の国際会計論Bでは、IFRS の個別の基準・日本基準と米国会計基準の概要および主な相違点・IFRS の将来像（サステナビリティ開示を含む）を学修します。

受講にあたっては、「会計学基礎」「会計学総論」を履修していること、「財務会計論A」を並行履修していることが望ましいです。

### 2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。同時に、新聞・雑誌などから具体的な事象を取り上げます。いずれにおいても、皆さんの積極的な参加を心から歓迎します。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス, 第 1 章 IFRS の学び方(1)意義	9. 第 3 章 IFRS の概要(1)会計方針, 会計上の見積り
2. 第 1 章 IFRS の学び方(2)ポイント	10. 第 3 章 IFRS の概要(2)収益
3. 第 2 章 IFRS の基礎知識(1)構成	11. 第 3 章 IFRS の概要(3)棚卸資産
4. 第 2 章 IFRS の基礎知識(2)特徴	12. 第 3 章 IFRS の概要(4)有形固定資産
5. 第 2 章 IFRS の基礎知識(3)原則主義	13. 第 3 章 IFRS の概要(5)無形資産
6. 第 2 章 IFRS の基礎知識(4)概念フレームワーク	14. 第 3 章 IFRS の概要(6)減損
7. 第 2 章 IFRS の基礎知識(5)公正価値	15. まとめ
8. 第 2 章 IFRS の基礎知識(6)財務諸表	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい（30分程度）。また学修内容の定着には復習が不可欠です。前回の授業内容は、配布資料も使って理解に努めて下さい（1時間程度）。もし不明点や疑問点があれば、メールや次回の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に考えましょう。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を（試験）終了直後に説明します。

### 6. 授業における学修の到達目標

IFRS の基本的な考え方を理解した上で、IFRS を巡る国際的な動向の概要を把握することが目標です。

### 7. 成績評価の方法・基準

平常点 50%（授業への取組み姿勢など）および期末テストの結果 50%の割合で成績評価を行います。

### 8. テキスト・参考文献

テキストは、橋本尚・山田義隆（2022）『IFRS 会計学基本テキスト（第7版）』中央経済社を使用します。本テキストは改訂される可能性があります。授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

### 9. 受講上の留意事項

受講にあたっては、会計の基礎知識を有している方が望ましいです。とはいえ必要不可欠ではありません。まずはIFRSを知ってもらえるよう、出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

ただ授業は積み上げ、内容的にはAとBでワンセットです。したがって通年で毎回出席されることをお勧めします。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当します。本授業は、総合商社（経理部門）における実務経験も活かして指導します。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。